



2020年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2020年2月3日
上場取引所 東

上場会社名 神戸電鉄株式会社
 コード番号 9046 URL <http://www.shintetsu.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 寺田 信彦
 問合せ先責任者 (役職名) 経営企画部 部長 (氏名) 坂本 義之 TEL 078-576-8671
 四半期報告書提出予定日 2020年2月13日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無：無
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2020年3月期第3四半期の連結業績 (2019年4月1日～2019年12月31日)

(1) 連結経営成績 (累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	営業収益		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年3月期第3四半期	17,468	0.2	2,240	0.8	1,809	△2.6	1,494	△1.0
2019年3月期第3四半期	17,432	0.1	2,222	△1.9	1,858	7.2	1,509	△2.2

(注) 包括利益 2020年3月期第3四半期 1,535百万円 (8.8%) 2019年3月期第3四半期 1,411百万円 (△14.0%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年3月期第3四半期	185.89	—
2019年3月期第3四半期	187.79	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2020年3月期第3四半期	92,138	20,215	21.9
2019年3月期	93,732	18,684	19.9

(参考) 自己資本 2020年3月期第3四半期 20,215百万円 2019年3月期 18,684百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2020年3月期	—	0.00	—	—	—
2020年3月期 (予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2020年3月期の連結業績予想 (2019年4月1日～2020年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	営業収益		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	23,220	1.0	2,300	△1.4	1,640	△12.7	1,300	7.1	161.72

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2020年3月期3Q	8,061,566株	2019年3月期	8,061,566株
② 期末自己株式数	2020年3月期3Q	24,109株	2019年3月期	22,961株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2020年3月期3Q	8,038,097株	2019年3月期3Q	8,039,419株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は今後様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。業績予想に関する事項については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8
3. 運輸成績	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、雇用・所得環境の改善が続いているものの、消費税増税の影響や世界経済の不確実性など、先行きに不透明感が続く状況で推移しました。

この間当社グループにおいては、各部門において増収に注力するとともにコストの削減に努めた結果、当第3四半期連結累計期間の業績は次のとおりとなりました。

すなわち、営業収益は17,468百万円となり前年同期に比べ36百万円(0.2%)増加、営業利益は2,240百万円となり前年同期に比べ18百万円(0.8%)増加、経常利益は1,809百万円となり前年同期に比べ49百万円(2.6%)減少、親会社株主に帰属する四半期純利益は1,494百万円となり前年同期に比べ15百万円(1.0%)減少しました。

当第3四半期連結累計期間のセグメント別の概況は次のとおりであります。

運 輸 業

鉄道事業においては、「安全の絶対確保」を図るため、安全管理体制のさらなる整備・充実に取り組んだほか、「鉄道軌道安全輸送設備等整備事業」等の補助を活用しながら、軌道の強化等の工事を押し進め、運転保安度の一層の向上に努めました。また、省エネ性能に優れた6500系車両1編成の新造に着工し、2020年3月の運用開始を目指しております。加えて、バリアフリー化工事を進めております長田駅において、2019年12月にスロープ及び多機能トイレの供用を開始するとともに、エレベータにつきましては2020年3月の竣工に向けて順調に進捗しております。

増収策としては、有馬温泉への旅客誘致を図るため、「有馬・六甲周遊1dayパス」や「有馬温泉 太閤の湯クーポン」等の企画乗車券を発売したほか、紅葉シーズンには、「JOYFUL ARIMA食浴の秋“有馬”」を開催しました。また、沿線自治体・各種団体と連携し、企画ハイキングや「神鉄沿線で体験イベント!」などご家族で気軽にご参加いただけるイベントや、神出山田自転車道(神戸市)のリニューアルイベントと連携した「サイクルトレイン」等、電車を使用したイベントを多数開催し、神鉄ファンの獲得に努めました。

沿線人口の減少対策としては、駅を中心としたまちづくりが推進されることにより、人口定着や鉄道の利用促進が図られるよう沿線自治体と連携した取組を進めております。

バス事業においては、企業や学校の貸切送迎業務をはじめ積極的な営業活動を展開し、増収に努めました。

これらの結果、平成30年7月豪雨災害による列車運休等の反動増もあり、当第3四半期連結累計期間の運輸業の営業収益は9,940百万円となり、前年同期に比べ109百万円(1.1%)増加し、営業利益は1,340百万円となり、前年同期に比べ56百万円(4.4%)増加しました。

不 動 産 業

土地建物賃貸業においては、賃貸物件へのテナント誘致を進め収益の拡大を図るとともに、土地建物販売業においては、兵庫県芦屋市の戸建用地等を販売しました。

なお、管理運営業務として、神戸市から「神戸市ものづくり工場(神戸市兵庫区)」他2施設を、神戸市道路公社から駐車場2施設を受託し、円滑な運営に努めております。

しかしながら、前年同期に販売土地を素地売却した影響等により、当第3四半期連結累計期間の不動産業の営業収益は1,529百万円となり、前年同期に比べ245百万円(13.8%)減少し、営業利益は726百万円となり、前年同期に比べ34百万円(4.5%)減少しました。

流 通 業

食品スーパー業においては、青果部門を中心とした生鮮部門の強化等により集客を図るとともに、ポイント優遇デー等の販売促進キャンペーンを各店舗で積極的に展開しました。また、増収と利益率改善を図るため、取扱商品の拡充にも努めました。

コンビニ業においては、各店舗で増収に努めました。

飲食業においては、2019年4月からケンタッキーフライドチキン武庫之荘駅前店(兵庫県尼崎市)・阪急茨木店(大阪府茨木市)の2店舗の営業を開始し、順調に推移しております。

これらの結果、当第3四半期連結累計期間の流通業の営業収益は4,633百万円となり、前年同期に比べ83百万円(1.8%)増加し、営業利益は27百万円となり、前年同期に比べ15百万円(125.0%)増加しました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、有形固定資産が減少したこと等により前連結会計年度末に比べ1,594百万円減少の92,138百万円となりました。

当第3四半期連結会計期間末の負債は、買掛金及び借入金が増加したこと等により前連結会計年度末に比べ3,126百万円増加の71,922百万円となりました。

当第3四半期連結会計期間末の純資産は、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上に伴い、利益剰余金が増加したこと等により前連結会計年度末に比べ1,530百万円増加の20,215百万円となり、自己資本比率は21.9%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、2019年5月14日発表の業績予想から変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,110	1,247
受取手形及び売掛金	1,068	1,039
短期貸付金	49	50
販売土地及び建物	442	388
商品	118	128
貯蔵品	408	504
その他	1,977	967
貸倒引当金	△0	△0
流動資産合計	5,173	4,326
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	43,818	42,785
機械装置及び運搬具(純額)	5,735	5,464
土地	34,767	34,771
建設仮勘定	612	1,105
その他(純額)	427	406
有形固定資産合計	85,360	84,532
無形固定資産		
その他	659	586
無形固定資産合計	659	586
投資その他の資産		
投資有価証券	1,055	1,089
長期貸付金	557	506
繰延税金資産	142	37
退職給付に係る資産	448	697
その他	352	381
貸倒引当金	△17	△17
投資その他の資産合計	2,538	2,693
固定資産合計	88,559	87,811
資産合計	93,732	92,138
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	3,949	1,427
短期借入金	20,693	21,454
未払法人税等	100	188
前受金	74	406
賞与引当金	50	19
ポイント引当金	11	12
その他	2,576	3,038
流動負債合計	27,457	26,546
固定負債		
長期借入金	41,519	39,400
繰延税金負債	6	14
再評価に係る繰延税金負債	3,471	3,471
退職給付に係る負債	115	106
長期末払金	580	486
長期預り保証金	922	927
その他	975	969
固定負債合計	47,590	45,376
負債合計	75,048	71,922

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	11,710	11,710
利益剰余金	5,308	6,802
自己株式	△73	△78
株主資本合計	16,945	18,435
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	156	185
繰延ヘッジ損益	0	1
土地再評価差額金	1,500	1,500
退職給付に係る調整累計額	82	91
その他の包括利益累計額合計	1,738	1,779
純資産合計	18,684	20,215
負債純資産合計	93,732	92,138

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第3四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
営業収益	17,432	17,468
営業費		
運輸業等営業費及び売上原価	13,326	13,247
販売費及び一般管理費	1,884	1,980
営業費合計	15,210	15,227
営業利益	2,222	2,240
営業外収益		
受取利息	0	0
受取配当金	27	24
雑収入	152	55
営業外収益合計	181	80
営業外費用		
支払利息	521	492
雑支出	23	18
営業外費用合計	544	511
経常利益	1,858	1,809
特別利益		
固定資産売却益	188	—
工事負担金等受入額	64	87
その他	63	—
特別利益合計	316	87
特別損失		
工事負担金等圧縮額	253	87
災害による損失	250	—
その他	2	6
特別損失合計	506	94
税金等調整前四半期純利益	1,667	1,803
法人税、住民税及び事業税	81	209
法人税等調整額	77	98
法人税等合計	158	308
四半期純利益	1,509	1,494
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,509	1,494

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
四半期純利益	1,509	1,494
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△117	29
繰延ヘッジ損益	10	1
退職給付に係る調整額	8	9
その他の包括利益合計	△98	41
四半期包括利益	1,411	1,535
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,411	1,535
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

セグメント情報

I 前第3四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)
報告セグメントごとの営業収益及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	運輸業	不動産業	流通業	計				
営業収益								
(1) 外部顧客への営業収益	9,812	1,567	4,542	15,922	1,510	17,432	—	17,432
(2) セグメント間の内部営業収益 又は振替高	18	207	7	234	664	898	(898)	—
計	9,831	1,774	4,550	16,156	2,174	18,330	(898)	17,432
セグメント利益	1,284	760	12	2,057	159	2,217	4	2,222

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、保育事業及び健康事業並びに建設業他を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額4百万円は、主にセグメント間取引であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第3四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
報告セグメントごとの営業収益及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	運輸業	不動産業	流通業	計				
営業収益								
(1) 外部顧客への営業収益	9,921	1,346	4,626	15,894	1,573	17,468	—	17,468
(2) セグメント間の内部営業収益 又は振替高	18	183	6	208	643	852	(852)	—
計	9,940	1,529	4,633	16,103	2,217	18,320	(852)	17,468
セグメント利益	1,340	726	27	2,094	170	2,264	(23)	2,240

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、保育事業及び健康事業並びに建設業他を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額△23百万円は、主にセグメント間取引であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

3. 運輸成績

		当第3四半期累計期間 (自2019年4月1日 至2019年12月31日)	前第3四半期累計期間 (自2018年4月1日 至2018年12月31日)	増減率
輸 送 人 員		千人	千人	%
	定期外	15,421	15,197	1.5
	定期	29,519	29,258	0.9
	計	44,941	44,455	1.1
旅 客 収 入		百万円	百万円	%
	定期外	3,633	3,563	2.0
	定期	3,455	3,480	△0.7
	計	7,089	7,043	0.6

(注) 輸送人員は千人未満を、旅客収入は百万円未満をそれぞれ切り捨てて表示しております。